



令和4年 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業  
モデル施設実践報告会

# ノーリフティングケア2年目の飛躍 突き進んだ2年目

社会医療法人 弘恵会  
介護老人保健施設 アルテンハイムヨコクラ

## 二年目の活動計画と取組み結果

1

### 委員会力強化

委員会メンバーが交代し、  
委員会メンバーの再編成  
及び技術伝達を円滑に行な  
える体制つくりを推進。

2

### 教育体制の見直し

一年目は全体研修を軸に教  
育体制を組んでいたため、  
コロナの影響を受け予定  
通りに研修が進まなかった

3

### 健康管理

腰痛重度者だけでなく、  
腰痛のないスタッフや軽度腰  
痛のスタッフも含めて健康管  
理を行っていく必要がある。

4

### クラスター時の対応

施設内で、避けられないクラ  
スターが発生した際に、ノーリ  
フティングケア活動をどう継続  
し、どう活用するか。

## アルテンハイムヨコクラ

### 基本理念

人としての尊厳を支えるケア、  
個々のニーズに対応できる暖  
かいケアを提供する

### 概要

定員：95名 + ショートステイ5名  
平均介護度：3.0  
介護職員数：31名



## 委員会での取り組み



### ミーティング

定期的な会議を開催し、  
それぞれの係の状況報告や  
問題点などを協議する



### 実技研修

委員会メンバー同士  
での技術向上を図る



### 伝達研修

マネジメント研修や  
技術強化研修の内容を  
委員会メンバーに伝達研  
修を行う



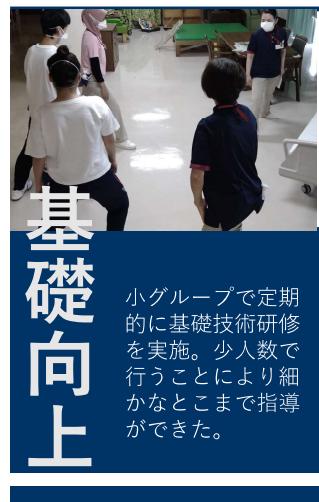
## 全体研修

年に三回の全体研修を開催。新しく購入した福祉用具や復習が必要な技術的研修会を開催した。



## 新人教育

新入職員に対しては基礎的な技術に加えて、ゲストに応じた個別対応方法など指導を実施。



## 基礎向上

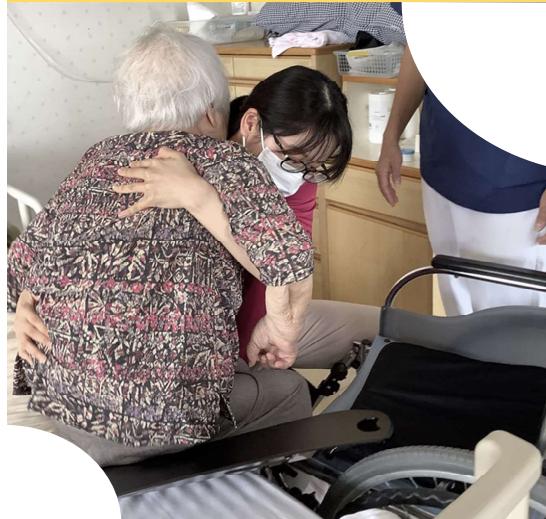
小グループで定期的に基礎技術研修を実施。少人数で行うことにより細かなところまで指導ができた。

## 教育での取り組み



ケアしている場面を撮影し、多職種で検証

## 皮膚びらんの発生件数



令和3年 令和4年

9件 ▶ 3件

スライディングボードの活用が増え、びらん件数は  
1/3に減少した

## 健康管理での取り組み

### 腰痛者に対する面談

腰痛者に対して個別面談を行い、レベル別に分け  
対応策を行う



### セルフエクササイズ

仕事のスキマ時間に運動を行えるよう掲示物の作成



### 日常生活指導

腰痛の状態に応じ  
日常生活での工夫などを  
指導・パンフレット配布



## 環境面での取り組み



### 環境整備

腰を曲げる場面を減らす  
工夫を行う



### 自作台車

握り手のない台車が欲しいとの  
要望を受け作成

## クラスター時のノーリフティングケア対応

### 少人数での活動

有事に集まれるメンバーで  
有事に何ができるのかを協議  
ディスプレイ用スライディング  
シートを作成



間に合わないときは、手作りで福祉用具

### 腰痛対策

ガウン着用時は特に体がコリ  
やすいためこまめに体操でき  
るように体操方法を掲示



これならできる腰痛体操

### 教育

有事に必要なNLC技術を指導  
ディスプレイ用スライディングシートを  
用いての上方・側方移動の  
指導を実施



## 令和4年度の取組みから見た課題

### 職員の意識の変化

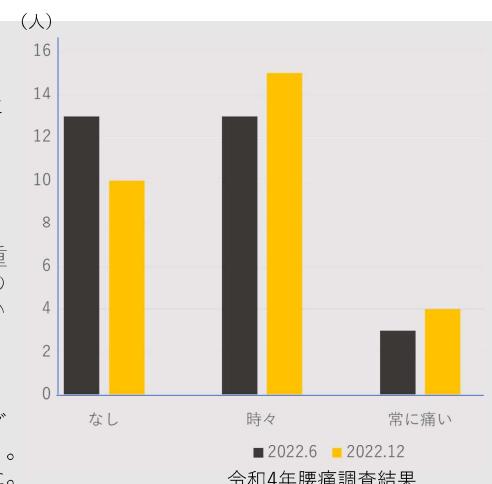
抱えない介護の意識が26%に減っており、  
ノーリフティングケアは根付き始めていると  
考えられる。

### 腰痛者の増加

6月と比較し、12月では腰痛者が増加した。  
12月の腰痛調査時期がコロナクラスター中と重  
なりガウンを着用した状態での介助や、休日の  
取得がとれない状況があり、腰が疲労しやすい  
状況であったと考えられる。

### 対策(特にコロナに備えて)

クラスターに備えスライディングシート・グ  
ローブ(ディスプレイ)をあらかじめ備蓄しておく。  
ガウン着用下でも、腰痛対策の意識を喚起した。



### 3年目の目標



フレックスボードの伝達研修



ガウン着ていても腰痛体操



実践マニュアルの勉強会

### 自施設での取り組み

- ・ クラスター対策の備蓄をする
- ・ ガウン着用下での腰痛予防体操の実施
- ・ 「常時痛い」をゼロにする
- ・ 教育体制の拡充



基底面内体重移動で安定介護



スタンディング リフトの操作

### グループ施設と連携

- ・ 抱えない介護のための「アセスメントツール」を標準化する
- ・ グループ施設の成功事例を共有する



みんなで協力して技術合格